

ずいそう

移動と異動

石 関 弘 年



「ずいそう」への原稿依頼を頂いたのは、未だ冬だったでしょうか。コロナ禍という言葉も生まれておらず、武漢加油という気持ちはあっても当事者意識は無かったと記憶しています。半年で世の中がここまで変わったのは、年齢50年、古河の禄を食んでの勤め人人生でも初めてでしょう。これから先、これ以上の災禍無き事を切に祈る日々です。「私の履歴書」を執筆できる玉でもありませんから、この執筆依頼を機に、移動と異動を重ねたふわふわした50年を振り返ることとします。

勤め人の息子として、名古屋市で生まれました。その後、静岡市現葵区、名古屋市千種区、茨木市、高松市、浦和市（現さいたま市浦和区及び緑区。その間、父は府中市、札幌市、宇都宮市と転々）で三回、就職した後も、横浜市に一時居住した後、福岡市城南区、さいたま市南区を経て、今、仙台市青葉区に居住しています。血統的には、旧浦和市と青森市の配合ですので、気候が躰に合うのか、夏の短い今が一番しっくりきています。名古屋では隣家の小火、静岡では水害に遭遇し、5歳くらいまでの写真は殆ど現存しません。臍氣に、救命ボートに乗った記憶も残っています。恐怖というよりは、なにかワクワクした感覚だったでしょうか。災害時に、子供の笑顔に救われる救助者やボランティアの方の話の聞きますが、子供の心は大人のそれとは少し違うのでしょうか。引っ越しは14回程しており、若い頃は色々な方の家にも泊めて頂いたりもし、今でも出張が続いた時などは、ふと、夜に目が覚めた時には、“ここは何処”的な感覚に陥ることがしばしばあります。私にとって、移動すること、それによって生み出されるものすべてが自らのアイデンティティーに繋がっています。子供の頃は、父親の転勤で苦労することも多く、出会った瞬間に、その方とお別れする光景がよぎることは今でもよく御座います。そう、この人との関係は長くない、との漠然とした感覚。転勤という勤め人の仕組みに、いったい何の意味が有るのかとの疑問も常に持っていました。移動に関する制限や労務管理の抜本見直しが叫ばれる昨今、考えさせられることも多く御座います。

只、働きだすとまったく違った感覚も持ちますし、戦後の一般企業では異動によるステップアップが労務管理の基本でもありました。同じ仕事を続けていると視野も狭くなり、様々な癒着も生まれ、新しい発想の妨げにもなるものですから、理にも適っていた訳です。異動を機に離職する人財（主に女性）を繋ぎとめる策

も色々講じられている昨今、転居を伴わない異動でもステップアップに繋がる道も大きく広がってきていますが、やはり心機一転は大切です。最低でも数年おきに、担当替えや職種変更だけはする必要が有ります。長く移動と異動を重ねてきた自分も、例えば自営業や地方公務員の子息として生を受けていたなら、きっと全く違った人格となっていたでしょうが、転生でもしない限り解りません。

一般的な企業であれば、本店でも支店でも営業職にある人間はエリア内での出張はつきものです。それも日常的で恒常的な移動。福岡市勤務の折には色々有り、結局11年余り過ごしました。同じ家に11年住んだのは、今のところあのアパートメントだけです。管轄エリアは当初九州7県。後に、沖縄と山口が加わり、9県となりました。平均すれば、週に1回はどこかに泊まっていたでしょうか。現場代理人を兼ねるような小規模工事を請負った折は、当然、連泊となります。何度も何度も通う訳ですから、人にも店にも地域にも愛着が生まれます。九州人といっても、殿様が違えば昔は違う国、地域性は今でも色濃く残っています。そもそも半数の殿様は移封された方です。新参者の播磨出身の黒田氏が普請した武家町の福岡と律令制以来の商人町の博多、厳しい越境制限を設けていた薩摩藩とその周辺地域等の違いはその典型でしょうか。余談ですが、先日の災害で大きな被害を受けた相良氏が居を構えた人吉も何度も訪れました。青井阿蘇神社楼門は見事なものですが、地域住人の生業の支えや寄進が有ったのものです。そう言えば、数年前に崩落した阿蘇への入り口の赤い大きな橋にも色々な思いが去来します。近年の災害は気候変動もあり、山間部が多い地域、火山国日本各所で大きな爪痕が残ってしまっており、なんとも困ってしまいます。外科的な処方では追いつきませんので、体を芯から立て直す内科的処方も考えなくてはならないところでしょう。

移動と異動は必要性の有無にかかわらず、太古より繰り返し行われてきました。コロナ禍の今、移動の制限に加え、その必要性すら疑問が湧き上がっています。物理的な移動の助けは、情報通信革命が補えることも多くありますが、生活してみないと解らない事も多く存在しています。移動し、異動する者こそが多様性を構築し、広がりとお行きの深さを生むのだと言いつつ聞かせ、今暫く、勤め人人生を謳歌していきたいと思えます。